

令和7年度

熊本県立大学 環境共生学部

環境共生学科 居住環境学専攻

特別選抜 学校推薦型選抜

小論文

問題用紙

【注意事項】

- (1) 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いて中を見てはいけません。
- (2) 問題用紙は、この表紙を含めて4ページあります。
- (3) 全ての解答用紙の指定の欄に、受験番号、氏名を記入しなさい。
- (4) 問題は、全部で2問（問題Ⅰ，問題Ⅱ）あります。2問ともに答えなさい。
- (5) 解答は、必ず解答用紙に記入しなさい。
- (6) 問題用紙の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- (7) 試験終了後、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰ってください。

(試験問題は、4 ページからです。)

(試験問題は、4 ページからです。)

次の問題Ⅰおよび問題Ⅱについて答えなさい。

問題Ⅰ

昨今、国や企業などが様々なデータを用いて未来予想を行っている。だが、これらはあくまで予想であって、未来は今の私たちがどう考え、どう行動するかで決まると言える。あなたは、今から16年後の2040年の住空間は、どうなっているべきと考えるか。あなたが考える「16年後の理想の住空間」をイメージし、その住空間の内容を500字程度で述べなさい。その際、空間の用途、広さ、材料、色、家具、光の入り方、さらに周辺の景観や地形、場所の特性などに関してできるだけ具体的に述べなさい。

問題Ⅱ

我が国における伝統的な構法による木造建物は、古くからの日本独自の木造文化を受け継ぎ、長い時間をかけて発展してきたものである。木造文化を伝えていくためには、これらの建物を今後も守り伝えていくことが重要であると考えられる。一方、近年では、木造建物の持つ地球環境や居住環境への優しさが再評価され、このような特性を生かした新しい木造建物づくりが推進されている。

伝統的な構法による木造建物と近年建設されている新しい木造建物に関して、あなたがこれまでに見聞きしてきたことを踏まえて、それぞれの建物がもつ特徴、および、伝統的な構法による木造建物をこれからの時代に継続して利用していくために必要な事項について500字程度で記しなさい。